



よこと館だより



Est. 1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 埋め草 ⑥ ～兄弟法人至誠学舎東京 理事長交代に思う～

至誠学舎は明治も終わろうとしていた明治 45（1912）年 6 月の創業です。創業者稲永久一郎翁は明治 15（1883）年 7 月 17 日、福岡の農家に生まれましたが青雲の志を抱いて上京、職を幾つか変えながら製菓業を起こします。そして 30 歳の初夏、虞犯少年 2 人を自宅に引き取り、現在の法人事業に繋がる社会事業の取り組みが始まりました。戦前は司法省管轄の少年保護事業でした。しかし翁は戦後の混乱期、昭和 21（1946）年 4 月、63 歳の若さで、肺炎で急逝してしまいます。そして制度も変わり少年保護事業の継続が不可能となり、新憲法のもと現在の法人が取り組む社会福祉事業が再スタートしたのです。

2 代目理事長は創設者の妻稲永ヨシさんが継ぎました。ヨシさんは戦後の混乱期を乗り切り昭和 31（1956）年 7 月没、第 3 代理事長には創設者の長女と結婚していた阿観心先生が後を受け継ぎました。昭和 57（1982）年、先生は永年の福祉事業の功勞に対して名誉都民の栄誉を受けられました。翌年昭和 58（1983）年没、第 4 代には橋本良市先生が就任、当時職員数が約 1,000 人、懸案であった立川地区と保谷地区の法人分割に取り組みました。

橋本良市先生は平成 10（1998）年、至誠学舎立川と至誠学舎東京への分割を果たして退任、この時新しい法人経営の在り方として理事の定年制を導入した事がその後の法人の在り様に大きな影響をもたらしました。3 代目までは終身理事長だったのです。第 5 代は社会事業大学名誉教授の仲村優一先生、第 6 代には平成 16（2004）年、関岡武次元東京都福祉局長が就任、平成 19（2007）年第 7 代に高橋利一現相談役が受け継ぎました。そして平成 27（2015）年から私が第 8 代理事長職に就き今日に至っています。

一方、至誠学舎東京の方は分割後初代理事長に阿和嘉男さんが就任、平成 20（2008）年現役のまま急逝、阿亜紀良さんがその後を受け継ぎました。今、至誠学舎東京は保谷地区の特養 2 施設と保育園の全面改築計画を進めています。大事業ですが、実施計画案が出来たところで 7 月 31 日、阿亜紀良前理事長は健康上の理由で退任、あとは常務理事・緑寿園園長だった三上義樹さんが第 3 代理事長に就任、大事業の先頭に立って指揮をしていく事となりました。

事業にとって大切な事は安定的な事業経営、そして最大のテーマは事業継承、次代を育てることです。そして事業が継続して世の中のために役立つ働きをします。リーダーにとって一番大切なこと、それは常に任せられる「人と組織」を育てる事なのです。至誠学舎の歴史とリーダーだった方々を偲び業績を振り返ると万感の思いが胸を去来します。

今回の兄弟法人理事長の交代、阿亜紀良さんのご功績に敬意を表するとともに、後を任せられた三上義樹さんのご活躍を心から祈念いたします。

理事長 橋本正明

事業本部長メッセージ

今年の夏、何時になく長雨が続き、8 月になっての梅雨明け、至誠の森は一気にセミの高い鳴き声を合図に夏日、猛暑となり危険な暑さ「熱中症警戒アラート」が連日のように発表。今後も異常気象と新型コロナ感染で健康、安全等心配されます。

ところで毎年の孫との楽しみにしていた旅行、昨年の記事「毎日伊豆ならよかったのに…」も今年は自粛で残念でした。小学校も大変なコロナ禍で 3 ヶ月半の休校措置後、新しい生活様式で始まり夏休みに。こんなにも短い夏休み期間は東京都では初めてのようです。



<梅丘建設中の新園舎>

さて、梅丘至誠保育園建設工事でも地盤、基礎工事、工場での木材のプレカット、そして組み上げて主要な部分ができ無事に「上棟」で子どもと共に祝いました。コロナ禍と猛暑の困難な状況下で関係する多くの皆様、そして近隣の方々のご理解を頂き、とても有難く感謝です。今後ともご支援等宜しくお願い致します。残暑がとても厳しい折、くれぐれもご自愛ください。



<5月に着工し、8月27日子どもたちと上棟のお祝いの様子>



保育事業本部長 稲永勝行

事業本部情報

🌿 児童事業本部 🌿

今年の夏休みは、新型コロナウイルスの影響により期間も短く、宿泊を伴う行事やスポーツ大会等も中止になりました。仕方のないことではありますが、子ども達が大きく成長する貴重な機会を失うことは残念でなりません。ただこのような状況下ではありますが、子どもたちには出来るだけたくさんの楽しい経験をさせてあげたいと考え『だいちのひ夏休みイベント』と表して様々な1DAYプログラムを企画し実施しました。「映画会」「肝だめし大会」「スタンプラリー大会」「天体観測」「虫とり隊」「花火大会」、至誠学園と合同の「ウォーターフェスティバル」「ドッチボール大会」など子どもたちにとっては例年と違う特別な夏の思い出になったと思います。

今後の新型コロナウイルスとの共存において、出来ないことを嘆くだけでなく、出来ることを探し、考え、実践していくことが大切であることを実感しています。

これからも職員ともども感染防止を第一としながら、子ども達の笑顔が絶えることのない潤いある生活づくりを心掛けて参ります。(至誠大地の家 施設長 石田昌久)

🌿 保育事業本部 🌿

7月末までの長梅雨で豪雨による被災地の復興が進まない中、8月に入ると一転し一気にセミが鳴き始め、猛暑に襲われました。コロナウイルスと熱中症対策に気の休まることのない2020年の夏が終わります。当園では近年の猛暑に備え、6月にグリーンガーデンにミストとスプリンクラーを設置し、熱中症測定器のアラームが鳴らない様、環境を整えておきました。コロナ密の対策でプールは中止でしたが、毎日水遊びをする3,4,5歳児の楽しそうな姿にホッとする思いでした。ご理解あるご近所の方々に感謝です。0,1,2歳児の水遊びは8月1日に完成したオーニング付きウッドデッキで行い、こちらも快適な様子でした。コロナ禍で制限される保育園生活ですが、秋に向けて運動会や動物園への遠足など、可能な限り知恵を出し合って工夫していきます。私的には、温泉旅行に行けないことがストレスになりつつある昨今ですが、コロナは長期戦と覚悟を決めて気持ちを立て直しています。新薬の早期開発を祈るばかりです。(至誠あずま保育園 園長 霧田清江)

🌿 高齢事業本部至誠ホーム 🌿

至誠国分寺ケアセンターは、開設15年目の「至誠ケアセンターもとまち(地域包括支援センター・居宅介護支援・デイサービス)」と、開設7年目の「地域包括支援センターほんだ」の4事業で構成されています。もとまちの事務所スペースはかなり狭めなこともあり、包括の職員とケアマネジャー計10名のスタッフがひしめく「超三密状態」にあります。故に新型コロナウイルス感染予防の取り組みを強化しています。事務所のデスクや相談窓口に、スタッフによる手作り感あふれるアクリル製の仕切板を設置しています。4月の緊急事態宣言発令以降、スタッフ全員で始業前に入念な拭き掃除を行っています。また、取り組みの一つとして事務所内で食べることを「自粛」しています。当初、スタッフがどこまで耐えられるか不安がありましたが、今では私も含めてすっかり慣れてしまいました。(至誠国分寺ケアセンター長 長畑達也)



<もとまち事務所の様子>

本部事務局だより

アメリカ大統領選挙が3ヶ月後に迫って来た。コロナ禍の中で大国アメリカのリーダーが選ばれる訳だが、中国との激しい覇権争い、中東問題、イランへの経済制裁、欧州 NATO からの撤退問題、北朝鮮問題等、日本が無関係ではいられない国際情勢が緊迫する中での選挙は、投票権の無い日本国民の一人としてアメリカ国民の賢明な判断を祈るばかりだ。しかしアメリカでは、世界平和を目指すような理想主義的な外交問題は「票ならない」と言われているようで、税金が上がるのか下がるのか？失業率が上がるのか下がるのか？自分の生活に直接係わる政策によって、判断されるようである。コロナ禍への対応にしても、自分の懐にどう響くかが大きな問題のようである。8月中旬現在の世論調査では、バイデン候補がトランプ候補を上回っているようだが、前回選挙では世論調査に反した結果となっていることもあり、予断を許さない。トランプ氏もこれから起死回生の大政策を打ち出すことだろう。日本の選挙の神様と言われた人は「飴玉をばらまけば票になる」と言っている。飴玉にこっそり毒が仕込まれていないか慎重に見極めてもらいたいものである。

(法人事務局長 野島 忠幸)

(編集後記)今年もより一層暑さが増していますね。近年、豪雨や台風による災害が多いので、これからの台風シーズンに向けて、今のうちに防災セットの見直しも行いたいと思います。(小)